



第 472 号 平成 29 年 11 月 1 日
 発行所 京都市学校医会
 京都市中京区間之町通竹屋町下ル
 楠町 601-1 こどもみらい館 2 階
 T E L (075) 256-0351
 F A X (075) 241-3568
 発行人 林 鐘 声

平成 29 年運動器検診結果

会 長 林 鐘 声

昨年は学校医会の要望に基き、各学校の養護教諭が学年毎、項目別に検診結果をまとめたものを京都市教育委員会体育健康教育室が一覧のデータにして学校医会に届けて頂きました。学校医会は図表にまとめるなどして分析した情報を学校現場に還元しましたが、その要点として、運動器検診によって脊柱側弯症が多く見つかると同時に、運動器に問題のある有所見者が中高生に多いこと、中でも運動部員に多いこと、そして、専門医受診率の向上が課題としてあることなどを明らかとしました。

今年は教育委員会からの報告をもとに、全体の動

中>高であり、高校生の受診率を高める課題は昨年と同様ですが、小中高の受診率は大幅に向上し、平均すると41%でした。脊柱のゆがみの専門医受診率の調査は、システム上の困難さから、昨年も今年も調べていません。別を実施した昨年の専門医受診結果では、脊柱側弯症と診断された215人を含めて273人に脊柱に関連した疾患が見つかっていました。昨年、脊柱のゆがみのため専門医受診を指示されていたのは825人でしたから、脊柱のゆがみの専門医受診率は33% (273/825) 以上であったことは確かです。今年受診率が昨年より低下する理由は見当たりません。

次に、昨年の有所見者の今年の結果を調べるため、教育委員会が抽出した7校の中学校の2年間の検診結果を入手しました。昨年、中1・中2であった1,987人の昨年と今年有所見者であったか否かの問診結果については、10月号の校医ニュースで紹介しました。今回は平成28年の有所見者の平成29年の検診結果を報告します。今年欠席者は28人であったことから、全生徒数は1,959人となりました。平成28年に有所見者であった473人をその時の検診結果別に分けて平成29年の検診結果を調査したのが、表2-a~表2-dです。脊柱のゆがみ、しゃがみ込み不可の有所見者は人数も多く注目となりますが、腰痛、下肢の疼痛に注意のいることが見える結果となっています。平成28年には有所見者473人のうちの87人が専門医受診の指示を受けていましたが、平成29年には32人と減少するとともに191人が改善して検診対象外となっていました。

表1 平成29年の京都市の運動器検診結果
 (京都市立小中高生:94,728人)

	全項目	脊柱のゆがみ
有所見者率	15.1(17.5)	6.1(4.4)
専門医受診の指示率	1.7(2.5)	0.9(0.9)
姿勢注意・経過観察・要指導	7.5(7.2)	※別注 3.5(3.0)

()内は平成28年の結果

専門医受診率(脊柱のゆがみを除く)

小学校	47.0%(108/230)
中学校	40.6%(169/416)
高校	17.2%(11/64)
合計	41.0%(288/710)

向を知るようにしました(表1)。

京都市立小中高生の対象は94,728人、有所見者率は昨年の17.5%から15.1%となり、専門医受診の指示率は有所見者の7人に1人から、9人に1人となりました。脊柱のゆがみの有所見者率は明らかに高くなっていますが、保護者の関心の高まりの反映と考えられます。

脊柱のゆがみを除いた項目の専門医受診率は小>

今回調査した7中学と全中学の平成28年の専門医受診の指示率は、4.4%と4.2%と同等でありながら、実際の受診率は47.1% (41/87) と20.4%と2倍の開きがありました。7中学は教育環境のよい学校と

いうことになるのでしょうか。平成20年に学校別にMRワクチンⅢ期の個別接種率を調べた時に、学校差の大きいことを知りましたが、それを思い出させる結果となっていました。

表2-a 平成28年有所見者(473人)のうち異常なしと診断された生徒の平成29年の検診結果

調査対象:7中学校(1959人)				
項目(人数)	対象外	異常なし	姿勢注意	専門医受診
①脊柱のゆがみ(74)	-	65	5	4
項目(人数)	対象外*	異常なし	経過観察	専門医受診
②腰痛(13)	8	2	1	2
③上肢の疼痛(5)	4	1	-	-
④上肢の可動域制限(2)	1	1	-	-
⑤下肢の疼痛(13)	8	3	2	-
⑥下肢の可動域制限(4)	3	1	-	-
⑦片脚起立不可(6)	6	-	-	-
⑧しゃがみ込み不可(26)	16	7	姿勢指 2	1
⑨その他(36)	28	8	-	-
②~⑨(105)	74	23	5	3

対象外:②~⑨の各項目の問診に所見のなかった生徒

表2-b 平成28年に姿勢注意・経過観察・要指導と診断された生徒の平成29年の検診結果

調査対象:7中学校(1959人)				
項目(人数)	対象外	異常なし	姿勢注意	専門医受診
①脊柱のゆがみ(66)	-	50	16	-
項目(人数)	対象外*	異常なし	経過観察	専門医受診
②腰痛(24)	14	3	2	5
③上肢の疼痛(6)	5	-	1	-
④上肢の可動域制限(6)	5	-	1	-
⑤下肢の疼痛(18)	17	-	1	-
⑥下肢の可動域制限(8)	7	-	1	-
⑦片脚起立不可(3)	2	1	-	-
⑧しゃがみ込み不可(59)	21	4	姿勢指 32	2
⑨その他(18)	13	3	-	2
②~⑨(142)	84	11	38	9

対象外:②~⑨の各項目の問診に所見のなかった生徒

表2-c 平成28年に専門医受診を指示され受診した生徒の平成29年の検診結果

調査対象:7中学校(1959人)				
項目(人数)	対象外	異常なし	姿勢注意	専門医受診
①脊柱のゆがみ(18)	-	10	3	5
項目(人数)	対象外*	異常なし	経過観察	専門医受診
②腰痛(4)	3	-	1	-
③上肢の疼痛(1)	1	-	-	-
④上肢の可動域制限(3)	2	-	-	1
⑤下肢の疼痛(8)	4	-	1	3
⑥下肢の可動域制限(1)	-	-	-	1
⑦片脚起立不可	-	-	-	-
⑧しゃがみ込み不可(4)	2	-	姿勢指 2	-
⑨その他(2)	1	1	-	-
②~⑨(23)	13	1	4	5

対象外:②~⑨の各項目の問診に所見のなかった生徒

表2-d 平成28年に専門医受診を指示され受診しなかった生徒の平成29年の検診結果

調査対象:7中学校(1959人)				
項目(人数)	対象外	異常なし	姿勢注意	専門医受診
①脊柱のゆがみ(15)	-	12	1	2
項目(人数)	対象外*	異常なし	経過観察	専門医受診
②腰痛(9)	5	1	-	3
③上肢の疼痛(3)	3	-	-	-
④上肢の可動域制限(1)	1	-	-	-
⑤下肢の疼痛(5)	4	-	1	-
⑥下肢の可動域制限(1)	1	-	-	-
⑦片脚起立不可	-	-	-	-
⑧しゃがみ込み不可(9)	3	1	姿勢指 4	1
⑨その他(3)	3	-	-	-
②~⑨(31)	20	2	5	4

対象外:②~⑨の各項目の問診に所見のなかった生徒

子育て支援シンポジウム 「困っています！子どもの頭痛と腹痛」

川岡東小学校医 山内 英子

10月14日(土)、こどもみらい館で平成29年度子どもの健康週間行事が開催されました。

今年のテーマは頭痛と腹痛に関して、でありましたので、いつもより年齢の大きいお子さんをお持ちの保護者、学校関係者の参加が多かったです。

頭痛に関しては日本で数少ない小児頭痛専門医の、京都第一赤病院新生児科の西村陽先生にお話しいただきました。

ご自身が片頭痛に悩まされておられた事、子どもの頭痛の特徴、ガイドラインに即した診断方法、エビデンスに基づいた頓服による急性期治療と各種予防薬による慢性期治療について解説して頂きました。

頭痛は心理精神的問題抜きでは語れませんが、それだけではない事。二次性の頭痛を見逃さないように慎重に精査の適応を検討すべきであることを強調されました。

小児の片頭痛は痛みの程度により予防薬服用は副作用も少なく効果があること。その他に、慢性連日性頭痛（日に4時間以上、月に15日以上）の頭痛が3か月以上持続するものがあり、登校困難になってしまうことが多い。頓服のみの服用では対応できないので、気長に予防薬を続けること。ただ、起立性調節障害を合併している児が殆どなので、登校できない状況から抜け出せない事もあるということです。

頭痛だけを診るのではなく、児の性格や生活環境も一緒に考えて診ていくことが大切になります。

腹痛に関しては堺市のたけなかキッズクリニック理事長の竹中義人先生にご講演頂きました。

腹痛とは何か？急性腹痛と慢性腹痛。怖い腹痛（器質性疾患）と辛い腹痛（機能的疾患）について。今回は1～2か月以上繰り返す慢性の腹痛を主に取り上げてお話頂きました。その代表的なものには反復性腹痛、機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群がありますが、最も良く研究されている過敏性腸症候群を中心に説明されました。問診をしっかりとって、警告症状がないかどうかを確認すること。心理・社会的ストレスが加わると胃腸症状が悪化し、胃腸症状がストレスになって不安が増強し更に胃腸症状

が強くなるという悪循環。心身相関が明確な病気と言われているので、本人には命にかかわる病気ではないということを伝え不安を取り除くこと。頑張っている行動を評価し、自信を持たせる。母親にも日常生活や食生活のアドバイスをを行うと良いこと。治療薬では腸管運動調整薬（セレキノン）、腸管環境調整薬（ポリフル）、漢方薬（半夏厚朴湯、抑肝散加陳皮半夏、小建中湯、桂枝加芍薬湯、安中散）。乳酸菌やビフィズス菌などのプロバイオティクス。カウンセリング=受容と共感、認知行動療法の紹介もして頂きました。

今回はおそらく症状のある子ども本人の参加もあり（頭痛のメカニズム…という難しい部分もありましたが）、講演の終わった後では活発な質疑応答がなされ、終了後も質問の為に、講師の先生の前には沢山の保護者の方が並んでおられました。それだけ困っているお子さんが多いということを実感しました。

京都小児科医会子育て支援委員会で、毎年このシンポジウムの企画をしています。テーマのご希望等ありましたらどしどしお寄せください。

中学生柔道大会に行ってきました

福西小学校校医 奥村正治

台風22号がやって来そうな10月28日（土）、29日（日）に京都市立桂中学校 小体育館で京都市中学校秋季総合体育大会柔道競技の部が行なわれました。

28日（土）は、福西小学校医の奥村正治が、29日（日）は、洛友中学校医の児嶋貴久先生が医務を担当いたしました。

この秋季大会は3年生の部員は参加しません。現1年生、2年生の試合となる為、参加人数や試合数等、春季大会、夏季大会より減っております。

28日（土）は、男子団体戦と女子個人戦（体重別で分かれ、8階級別です）の種目。翌日の29日（日）は前日の逆で、女子団体戦、男子個人戦の種目です。

28日（土）の男子団体戦では、決勝戦が2対2で大將戦で決着が着きます。これが引き分けとなり、

代表戦となり、所定の3分でも決着がつかず、時間無制限のどちらかが優位になるまでのGS（ゴールデンスコア）戦となり、4分41秒のところで「技有り」があり、高野中学が1位、京都学園中学が2位となりましたが、お互い「あっぱれ」でした。

28日（土）の医療面では、鼻出血が2例、嘔気症状が1例、それから当初は右第V指の指骨（中手骨、基節骨）の脱臼かと思われた症例ですが、整形外科受診にて指骨骨折、手術を要する。という1例が発生し、計4例でした。

29日（日）の分は、児嶋先生の報告より、鼻出血1例、背部打撲痛シップ処置1例の計2例との事でした。

第 6 回 常任理事会

平成 29 年 11 月 4 日
於 事務局

出席者 林会長, 井本副会長, 杉本専務理事, 東道・大久保・山内・西村・中嶋各常任理事, 佐野眼科学校医会副会長, 鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事, 奥村議長

・会長挨拶

<報告事項>

1. 京都市中学校選手権総合体育大会
ラグビーフットボール
10/7 於: 吉祥院グラウンド 渡辺全夫先生
10/8 於: 西京極陸上競技場補助グラウンド
生田篤也先生
2. 京都市学校保健会 第 2 回研究委員会 10/10
於: 京都市総合教育センター
3. 精神衛生研究会 10/12
4. 平成 29 年度子どもの健康週間行事に係る「子育て支援シンポジウム」 10/14
於: こどもみらい館
5. 平成 29 年度一般社会法人京都府歯科医師会会員大会 10/14
6. 京都市学校保健会 健康教育シンポジウム
10/17 於: 京都市総合教育センター
7. 京都市小学生陸上競技記録会, 持久走記録会
10/22 於: 西京極陸上競技場及び補助競技場
杉本英造先生, 山内英子先生 (台風のため中止)
8. 京都市中学校秋季総合体育大会 柔道種目
於: 京都市立桂中学校
10/28 奥村正治先生, 10/29 児嶋貴久先生
9. 色覚相談 10/31
10. その他

<協議事項>

1. 京都市教育委員会 体育健康教育室からの協議事項
・臨時結核健康診断におけるツベルクリン反応検査への御協力をお願い
・幼稚園における服薬支援について
・平成 30 年度学校医配置について
2. 新年会について 1/13 於: 京料理ちもと
3. 新任校医研修会について 3/22
4. その他

<関連学会・各種協議>

1. 精神衛生研究会 11/9
2. 京都市学校保健会学校保健関係者表彰式・研究発表会, 表彰祝賀会 出席者について 11/11
表彰式・研究発表会 14:00~16:30
於: ウイングス京都
表彰祝賀会 17:30~
於: リーガロイヤルホテル京都
3. 全国学校保健・学校医大会 11/18
於: 三重県津市
4. 第 6 回常任理事会 12/2 14:00~
5. その他